

## 令和3年度第2回多摩市総合教育会議 要点記録

1 日時：令和3年11月8日（月）午前10時から午前12時

2 場所：多摩市役所4階 第一委員会室

3 出席者：

### 出席委員（6名）

市長	阿部裕行
教育長	千葉正法
委員	岩佐玲子
委員	鈴木充
委員	原島久男
委員	比田井秀美

### 説明職員（15名）

企画政策部長	藤浪裕永
市民自治推進担当部長・企画課長事務取扱	田島元
財政課長	磯貝浩二
教育部長	鈴木恭智
教育部参事・教育指導課事務取扱	細谷俊太郎
教育部参事・教育指導課長統括指導主事事務取扱	山本勝敏
教育振興課長	加藤大輔
文化財・教育企画担当課長	齊藤義照
永山公民館長（兼）関戸公民館長	北方静史
図書館長	横倉妙子
中央図書館整備担当課長	萩野健太郎
学校支援課長	麻生孝之
学校給食センター長	澤井吉之
教育協働担当課長	室井裕之
教育センター長（兼）発達支援担当課長	田島佐知子

## 1 開会

阿 部 市 長 令和3年度第2回多摩市総合教育会議を開始する。

## 2 議題

事 務 局 

事務局より、配布資料の確認（資料1「学校規模の適正化について」資料2「中学校不登校特例校開設構想の再検討について」資料3「学校大規模改修工事の改修内容とスケジュールについて」資料4「令和4年度教育委員会の重要事項についての意見申し出」）を行った。
---

阿 部 市 長 はじめに教育長より教育長就任挨拶をお願いする。

千 葉 教 育 長 

千葉教育長より、就任挨拶が行われた。
--------------------

阿 部 市 長 それでは本日の議題に入る。報告事項1件目、学校規模の適正化について、教育部より説明をお願いしたい。

麻生学校支援課長 

麻生学校支援課長より、資料1に基づき説明が行われた。
----------------------------

阿 部 市 長 それでは質疑に移る。このことについて、意見、質問等はあるか。

岩 佐 委 員 このような状況の中で私たちがすべきことは、デメリットに目を向けるのではなく、これまでデメリットだと思っていたことが本当にデメリットになるのか、そしてメリットだと思っていたことが本当にメリットなのか、そういった柔軟な捉え方をして、どうすればより良いものになるのかを考えることである。引き続き、この方針で検討をお願いしたい。

鈴 木 委 員 高齢化が進んでいることから、やがて再開発の時代がくると思っている。これまでも学校統廃合が繰り返されていること等から、将来を見据えて、土地は簡単に手放さない方向で検討してほしい。

原 島 委 員 教育環境は常に変化していくため、きめ細かい見直しを行い、その時点で最良の方法を模索していただきたい。引き続き、この方針で検討をお願いしたい。

鈴木教育部長 学校規模の適正化については、経営会議をはじめ様々な場面で繰り返し議論を重ねている。引き続き市長部局と連携して進めていきたい。

藤浪企画政策部長 まちづくりとも関わってくる案件のため、こういった部分で影響があるのかどういう形が良いのかよく検討していきたい。

阿 部 市 長 1件目の案件については以上とする。それでは報告事項2件目、不登校総合対策について、教育部より説明をお願いしたい。

室井教育協働担当課長

室井教育協働担当課長より、資料2に基づき説明が行われた。

阿部市長

それでは質疑に移る。このことについて、意見、質問等はあるか。

岩佐委員

ここまでの経緯は、資料からもきめ細やかな対応だったことがわかる。資料にも記載があるとおり、不登校に苦しむ児童・生徒にとっては、一日一日がかけがえのない日々であるため、今何ができるか考え、迅速な対応が必要だと考えている。例えば近隣の大学で不登校の子どもたちが通うことのできる教室を開けないか等、立ち止まっている中でもできることを検討していきたい。

原島委員

中学校不登校特例校は、不登校の子どもたちにとっては非常に良いことだと感じている。現実には苦しんでいる人がいることを念頭に、ゆうかり教室や外部の教育機関との連携など、他の手段の充実を図りながら、できる限りはやく見直しを図ってほしい。

鈴木委員

ゆうかり教室のみだった不登校児童生徒対策が、この案件で大きく一歩前進できると期待していた。反対意見が多数寄せられたことで、地域への説明会を経て中断という判断をしたことについてはやむを得ないと思うが、問題は、自分自身も自治会で活動しているが、地域住民や自治会に情報がまわってこなかったことである。市民へのアナウンスは欠かせないため、見直す必要がある。また先日行われた教育支援フォーラムでは、児童・生徒が頻繁に顔を合わせられるネットワークが大切だという話がでていたが、多摩市にはそれが無いと感じている。不登校問題は大変な問題であるため、より多くの子どもたちが社会生活に携われるように、この案件を第一歩として検討を進めてもらいたい。

鈴木教育部長

不登校特例校については、決して立ち止まったままではなく、審議会も含め日々今現在どういったことができるか、協議を進めている。文部科学省からは、一度認可を得た内容については、時間をかけずに再認可することができるかと背中を押していただいている。いち早く再認可してもらうため検討を続ける。

原島委員からご意見頂いたゆうかり教室の充実については、教育支援フォーラムでも総合対策として不登校対策について考える等、今現在何ができるか考えていきたい。教育委員会事務局としては全力を挙げて、不登校の子ども、あるいはその家庭の保護者、地域をバックアップしていきたいと考えている。

鈴木委員からご意見頂いた情報提供等については、教育委員会事務局としてまず当該校の保護者に説明することが筋であったため、順序立てて取り組んでいた中で、展開する前に立ち止まってしまったというところである。但しご指摘いただいた通り、地域、関係者への情報提供が十分だ

ったとは思っていない。次は多くの市民、地域にご理解いただける方法を考えていきたい。鈴木委員から教育委員会でお伺いした1日1日が大事だという話、義務教育の単線型が複線型に変わっているという話が記憶に残っている。我々も検討を重ね、一日も早く不登校の子どもたちに不登校特例校という選択肢を出していきたい。また不登校特例校だけが不登校対策の手立てではないことを教育委員会事務局としても認識している。今やれること、各学校で取り組めること、教育センターで取り組めること等についても検討を行い、教育委員会にご報告の上、政策を実現していきたいと考えている。

阿 部 市 長 鈴木委員からご指摘いただいた通り、11月5日に行った教育支援フォーラムでも、フリースクール等の現場にいる先生方から、定期的に顔を合わせられる環境づくり、また個人の性質に合わせた対応が大切だというお話をいただいた。私どもは、子どもたちにとって一瞬一瞬が大切な時間であることを意識して、臨機応変に対応していきたい。

藤浪企画政策部長 実際に動かしていく中で、予算の関係等に対応していきたい。一旦立ち止まっているという状況については、次にどういう形で動いていけるのか、市長部局としてサポートしていきたい。

岩 佐 委 員 今の議論を通して考えたことを共有する。まちづくりの観点からも参加型は大切なため、市民の方が説明を受けて単に受け止めるだけでなく、ともに考えていける仕組みづくりをしていただきたい。またゆうかり教室を各大学で実施することは可能なのか。実現すれば新たな施設設備費をかけず、学生も育ち、子どもたちも様々な活動に参加できる。そして先日の教育支援フォーラムでは、児童・生徒がまず人と接することを楽しく感じられるよう、ゲームから始める等工夫しているという先生がいた。ゆうかり教室も、勉強を教える以上に人と接する場としても考えてもらいたい。

比 田 井 委 員 小学校からの不登校者が増加しているとともに、中学校でもひとクラスに2、3名ほど存在している現状で、先生が不登校の生徒へ直接電話する等の対応をしている話を聞いた。先生の負担を軽減する意味でも、スクール・ソーシャルワーカーの拡充や地域の方の力を借りる等して対策を検討していただきたい。

鈴木教育部長 岩佐委員からの市民参加型については、今回の反省点を活かし、市民の方への有効な情報発信については検討していきたい。一方で無責任な情報発信はできないため、内部での審議は慎重に続けていく必要がある。また近隣大学とは基本協定を結んでおり、ゆうかり教室や不登校特例校等の拡充については大学との連携も含めて研究していきたい。

比田井委員からお話いただいた通り、小学校も不登校者が増加しており、中学校も顕著に影響がでてきている。限られたリソースの中で地域と連携し、豊かな教育環境をつくっていくことが大切だと考えている。市長部局とも協議連携を続けながら、主体性を持って教育委員会事務局で検討していきたい。

阿 部 市 長 2件目の案件については以上とする。それでは報告事項3件目、学校大規模改修工事の改修内容とスケジュールについて、教育部より説明をお願いします。

加藤教育振興課長 加藤教育振興課長より、資料3に基づき説明が行われた。

阿 部 市 長 それでは質疑に移る。このことについて、意見、質問等はあるか。

質疑なし

阿 部 市 長 続いて協議・調整事項。令和4年度教育委員会の重点事項について、教育委員会から説明をいただき、その後取り組みや現状についての課題解決に向けて議論をしていきたい。  
それでは、教育委員会より説明をお願いしたい。

岩 佐 委 員 岩佐委員より、資料4に基づき「【1】新型コロナウイルス感染症に対応した新しい生活様式を踏まえた学校教育の支援について」説明が行われた。

鈴 木 委 員 鈴木委員より、資料4に基づき「【2】不登校児童・生徒への支援の推進について」説明が行われた。

原 島 委 員 原島委員より、資料4に基づき「【3】外部資源を活用した小学校水泳指導の推進について」説明が行われた。

比 田 井 委 員 比田井委員より、資料4に基づき「【4】学校におけるICT活用等の推進について」説明が行われた。

岩 佐 委 員 岩佐委員より、資料4に基づき「【5】学校施設の計画的な施設整備の推進について」説明が行われた。

鈴 木 委 員 鈴木委員より、資料4に基づき「【6】中央図書館の整備について」説明が行われた。

原 島 委 員 原島委員より、資料4に基づき「【7】特別な教育的支援を推進するためのピアティーチャーの配置について」説明が行われた。

比 田 井 委 員 比田井委員より、資料4に基づき「【8】多摩ふるさと資料館を中心と

した文化財行政の展開について」説明が行われた。

岩 佐 委 員

岩佐委員より、資料4に基づき「【9】社会教育と家庭教育の推進について」説明が行われた。

阿 部 市 長

1件目の「【1】新型コロナウイルス感染症に対応した新しい生活様式を踏まえた学校教育の支援について」、この2年間新型コロナウイルスの影響により、学校は大変な体験をしてきたと思う。その中で、運動会の配信等、実際に実施されたこと、また先生が必要と感じているがまだ実現できていないことについて、具体的にあれば千葉教育長から教えていただきたい。

千 葉 教 育 長

I C T機器については他市に先駆けて、各学校の先生方が「児童の学びを止めない」「ひとりも取り残さない」を合言葉に多摩市内すべての学校で整備を進めていただいている状況。また GIGA スクール構想では、学習を個別化、個性化していく取り組みが様々なところで始まっている。それぞれの子どもに対してどのような授業にしていくか、先生方からのアイデアをうまく吸い上げ、教育委員会の施策に活かしていきたい。第6波は見通せないが、来なかった場合も現在ある学習環境を活かす時代が到来するのではないかという期待を持っている。また教育委員会の独り相撲ではなく、保護者や地域の方と一緒に取り組むことが大事だと考えている。大学や民間施設等の外部資源も大いに活用していきたい。

不登校特例校についても、立ち止まっているのではなく、次の展開に向けて今何ができるか教育委員会の中でも議論を進めている。引き続きご支援いただきたい。

阿 部 市 長

次に「【3】外部資源を活用した小学校水泳指導の推進について」、今までは屋外だったため水泳指導が夏しかできていなかったが、屋内プールを活用すればいつでも実施できる。また指導員のスキルも高いということだが、市内小学校3校で行ったプログラムではどういった反応が得られたのか教えていただきたい。また「【4】学校における I C T活用等の推進について」、タブレットを持ち帰ることで、予習復習だけでなく世界と繋がることができる、という話があった。タブレットを使った家庭の中での状況と、その子どもたちの状況を教えていただきたい。

千 葉 教 育 長

まず水泳指導については、大変良好な反応が得られた。水泳に特化した指導技術をもっている指導員から指導を受けられることで、子どもたちも学習課題に応じた適切な指導が受けられていた。保護者からも好評であった。また水泳指導が苦手な教員もいるため、こういった活動が全小学校に広がっていくことは成果があることだと考えている。また、I C

T活用については、家庭にタブレットを持ち帰ることで、家で宿題に取り組むことができ、インターネットで調べ学習をしたり、学校で撮影した体育の動画を見て、各家庭で練習することで次の授業までに学習課題を仕上げてくることが可能となる。今後は、授業の予習を家庭で行うことで、学校では各スピードや習熟度に応じた学習を展開することができるのではないかと考えている。中学校では、3年後のパリでのオリンピックに向けて現地の子どもたちと音楽やダンスでの交流をしている。また新型コロナウイルスの影響により、学校で歌やダンスが十分に行えない状況から、タブレットを活用し家庭で練習することで発表に結び付けている等の事例も既に市内から出ている。今後こういった学習に繋がっていききたい。

阿 部 市 長 「【6】中央図書館の整備について」は、しっかり進めていってほしい。また資格を持った職員を採用することで知識と経験を活かしていただきたい。財政的にも支援していかなければならないと考えている。

「【8】多摩ふるさと資料館を中心とした文化財行政の展開について」は、多摩市としての貴重な財産を活かしていくためにも、デジタルアーカイブやインターネットを活用した資料のデジタル化を進めることは大切である。そして、家庭の中に眠っている貴重な写真等も収集していくことが必要ではないかと考えている。最後「【9】社会教育と家庭教育の推進について」は、公民館での講座等で大学より様々な支援をいただいていることから、改めて大学連携の必要性を認識した。コロナだからこそ、大学連携を進めていきたい。

その他、委員の皆様からご意見、質問等がありますか。

岩 佐 委 員 家庭教育は、子どもの貧困、母子家庭の経済的な課題、待機児童の問題等様々な問題があるため、なかなか想像することができない。ただ確実に困っている家庭が地域の中にあるため、声なき声を発している人に向けた支援を教育委員会でも考えていきたい。多摩市らしい取り組みとして、弱い立場のひとにできるだけ寄り添うという軸を大事にしていき、これまで通り進めてもらいたい。

鈴 木 委 員 ピアティーチャーについて、教育現場からは大変役に立っているという声があがっている。但し多摩市は独自の施策で実施しているため、補助金がでていない。市の単独事業とは、収支の実情を見ると大変厳しいため、有効性をもっと押し出さないといけない。

藤浪企画政策部長 単独事業の中でも、ピアティーチャーは独自の施策として長く実施しており、その存在が教育現場を支えるという認識でいるため、周りがしっかり支援していかないといけないと感じている。またどのような形で支援が求められるかについても考えていきたい。

阿 部 市 長 最後に、千葉教育長からまとめをお願いしたい。

千 葉 教 育 長 財政的には厳しい中ですが、「子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例（仮）」の旗のもと学校教育としても社会教育としても、そこに根ざした施策を展開していきたい。ぜひ今後も審議をお願いしたい。

阿 部 市 長 これより非公開の協議・調整を実施する。傍聴者および関係課長以外の退席をお願いする。

**非公開会議の実施**

阿 部 市 長 その他質問もないことより閉会とする。

以上